

学童期児童保護者の性教育に対する本音

「心の教育・性教育・人間教育を考える会」 及川育美

今回実施した学童期児童保護者への性教育アンケート「Q11 学校に望む性教育についてご意見があれば、教えてください。」の回答の一部を紹介します。

- 性教育は生きてく上で大切なこと。性的被害は命に関わること。きれい事ではないことを伝えるためにも、本格的に取組必要があると思う。
- 学生の望まない妊娠が増えているので避妊について、性行為の責任についてきちんと指導してほしい
- これは私の希望なのですが専門性の高い職種の方を学校へ招いて行ってほしいと思っています。ふざけるではないですが授業の延長上でやってしまうと、先生にチャチャを入れてしまう子が後々出て来そうなので、多少ショッキングな内容でも外部の講師の方であれば、心にも残るだろうと考えています
- 性の話はとても大事なこと。親から説明しづらかったり、適切な説明ができず、子供が歪んだ捉え方をする可能性もあるので、学校授業の一貫として適切なタイミングで正しい知識を持った大人から説明してもらえると助かります。性の正しい知識を持つことが、自分自身そしてパートナーを守ることになると思います。
- 中学生くらいで赤ちゃんができてしまったら男女ともに責任が取れないのだから、コンドームの必要性。性感染症の脅威
- 日本は海外よりも性教育が遅れているイメージがあるので、海外のレベルに合わせた教育をしても良いのではと思います。
- 子供の興味本位を満たすだけでなく、ネットに氾濫している情報から、正しい知識を得て、人としてベストな判断ができるように導く内容であって欲しい。
- 生理の仕組み以外にも、生理による体調不良の内容も詳しく男児に教育して欲しい。女性の体調を気遣える大人になって欲しい。
- 親として、どれくらいの年にどのように話したら良いのか、どこまで話すべきなのかわからず濁らせたことがありました。性のことについて、デリケートな内容だからこそしっかり理解してもらえよう学校で教えていただきたいです

- 恥ずかしいことではなく、尊重しあえる教育が希望です
- 赤ちゃんができる仕組み お互いの避妊のこと 興味本位ではいけない行為のこと 妊娠したことで、それから起こる責任のことなどなど、もっと深掘りしてほしい
- 人間として、お互いを尊重することの大切さ。流されて性的行為を行う危険性について。

このように、保護者の本音と不安や心配が書かれています。

私は、小学6年生と中学3年生の男児の働く母親です。私自身は、正直なところ、子どもへの性教育をどのようにしたら良いか、真剣に考えたことはありませんでした。それはなぜだろうかと考えてみると、「自分が教えてもらっていないから、仕方ないよね。」または、「学校で習うか、友達や漫画などで勝手に学び、いずれ分かるだろう、そういうもの。」そんな考えだったなと思います。そのくらい興味がなかった事柄だったので今回、「心の教育・性教育・人間教育を考える会」の知人に誘われ性教育の勉強会に参加した当初は、あまり乗り気ではありませんでした。しかし、現在の性教育について勉強し、私の周りの友人たちはどのように考えているのか、アンケートをとってみたことで、性教育は必要であり、大事な教育である、と少しずつ考えや意識が変わってきました。

今回のアンケート調査の目的と実施方法については以下のとおりです。

【調査について】

1, 調査の目的

学童期の児童を持つ保護者の性教育に関する体験と認識を明らかにし、学童期における、性に関する教育の取り組みへの示唆となるアンケート 調査を実施し、今後の研究の資料とする。

2, 調査方法

- ・対象者：関東在住、学童期保護者 14 小学校 26 名
※既に信頼関係のある保護者に依頼
- ・調査期間：2024 年 4 月 18 日～27 日

3, データの収集方法

無記名、グーグルフォームによるオンラインのアンケート調査による事例研究を行いました。

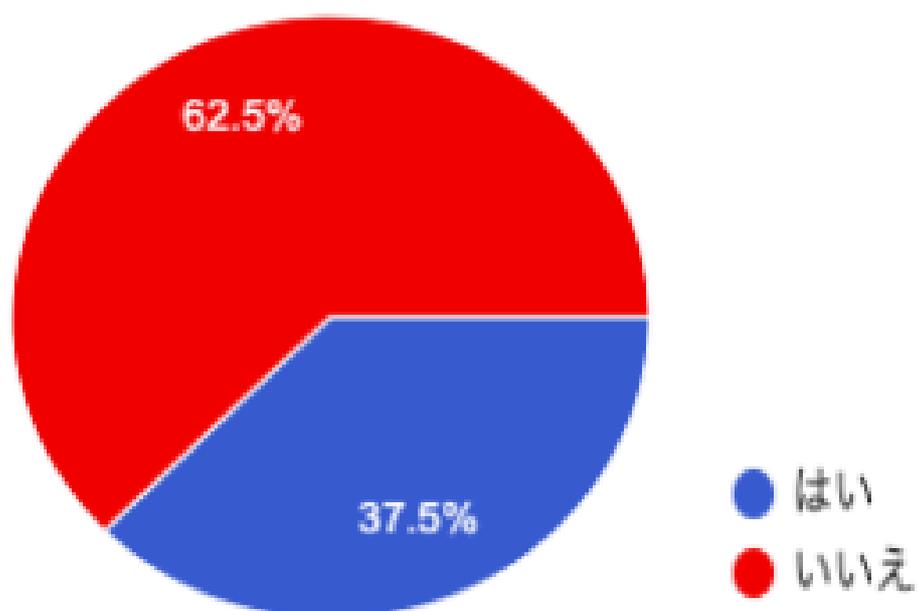
4, 調査結果

回収結果 24 名 (92.3%) 内訳 女性 21 名 男性 3 名
高学年保護者 (5,6 年生) 16 名
中学年保護者 (3,4 年生) 7 名

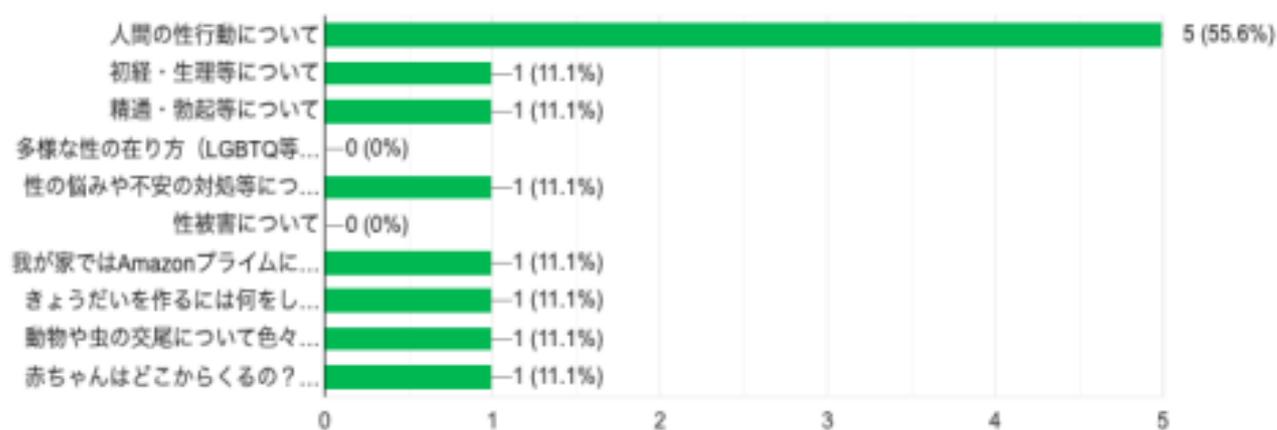
低学年保護者(1,2年生) 1名

アンケートの回答の一部を抜粋して示します。

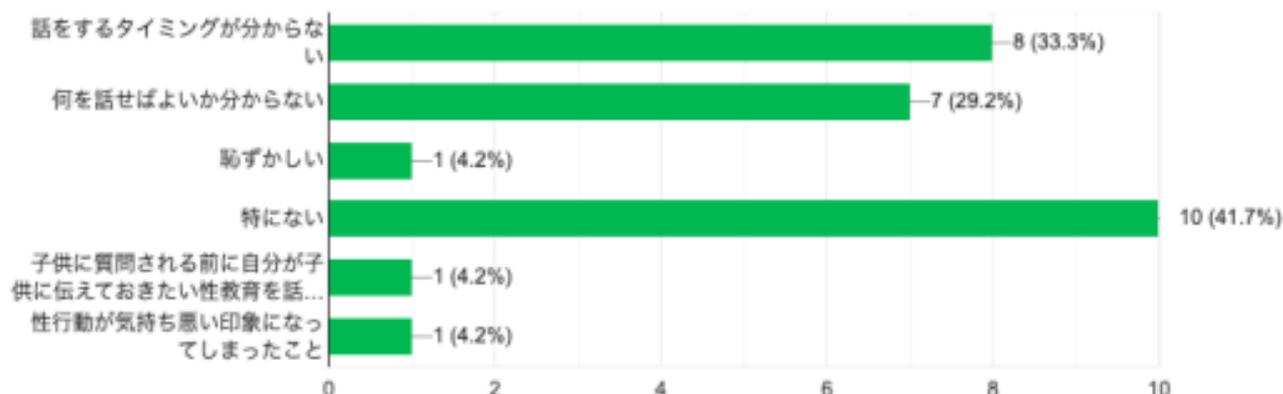
Q4お子様からの性の問いかけに、困ったことはありますか。



Q4で「はい」と回答した方にお尋ねします。困ったときの内容をお聞かせください。(複数回答可)



Q6子どもに質問されて困った理由について、該当する内容を選択してください。
(複数回答可)



性教育と聞くと、生殖に関する事だというイメージから、子供への説明が難しいと思いましたが、回答からも分かるように、なかなかタイミングが分からない、聞かれたとしても何をどう話したら良いか分からないと、思われている方が私自身を含めて多いようです。

しかし、現在の性教育について勉強してみると、日本の性教育は世界の中でも遅れていること、そして、包括的性教育が様々な国で実践されていることを知りました。

包括的性教育とは、生殖についてのみの学習ではなく、人権教育・全人格的教育、つまり生きるための教育(生教育)と考えます。

アンケートでは、冒頭で紹介しました問 11 の他にも自由記述の質問をいくつか実施しました。

Q10学校で行われている性教育で、知っていることがあれば教えてください。

- 赤ちゃんがお母さんのお腹の中で育つ過程について学んだ際に受精について教えてもらったそうです。
- フワツとした内容の性教育を学校で行っているが、すでに子供たちの方がより詳細な情報を得ている印象。
- 内容について知っているのは男女の発育発達の違い、命の誕生について、初経精通についてなど。養護教諭から話があるイメージがあります。
- お腹の中で赤ちゃんがどうやって育つのか、2年の時に教わったようです。
- 具体的な危険について教えず、大まかにしか教えない

- 赤ちゃんの誕生については、胎盤や羊水などの説明はあるがどのように生命が誕生するかは抽象的な説明だったらしい。

【私の思い】

回答とも同じように、学校での性教育は、身体の発育、男女の発育の違いを習うイメージでした。

子供に詳しく聞いてみようと考えたこともなかったので、同世代の保護者は学校での性教育について正しく把握している方は少ないのではないかと考えられます。

アンケートに協力して貰った保護者の回答からは、子供と性の関わりに対して心配し不安を抱いていると知ることができました。

現代は、共働き世帯が増え、厚生労働省の調査によると母親が働く子育て世帯の割合が77.8%(2024年7月時点)です。アンケートに協力して貰った保護者も全員仕事を持っています。とにかく保護者たちは忙しく、性教育を考える機会がなかなか持てないのが現状と言えます。

では、そのような不安を解消するために、保護者である私たちができることはなにか、たとえば世界の多くの国々で実施されている包括的性教育について学んだり、私たちが教わらなかった知識をアップデートすることではないかと思えます。

アンケート回答後の感想に「普段考えることがあまりないので、こういう機会を与えてくれてありがとう」と書いてありました。

今回の、身近な保護者への性教育に関するアンケートの実施は、小さな一歩かもしれませんが、1人でも多くの保護者の考えるきっかけとなれば幸いです。それはまた、私自身の性教育に対する消極的な意識の変化にもつながりました。

課題として、男性(父親)の性教育への意識を知りたいと思っています。

未来ある子どもたちの歩む社会がもっと生きやすくなるように、性の根源である命の大切さ、自分自身を大切にすること、相手を大切にすることをどのように子どもたちに伝えて行くべきか、家庭と学校の連携、そして社会全体で考え、意見を交わしながら試行錯誤していくことが大切だと思います。それにはまず、大人たち自身が命の尊さを再認識する必要があると思います。

子どもたちは大人たちの行動を見ています。

始めましょう。親子や夫婦、家族の性教育ミーティングを。